

泡（うたかた） -2004-



海の空こ

乳あほつ右  
癌たんつ手  
だたのむで  
かりと  
い

Krebsとは長いつきあいになってます。  
私と彼の二人の選の違いも  
ぜひお楽しみください♪

抜け落ちたモノ  
は  
髪の毛  
うん  
さっきの自分

地球

二回転する長さを

この身体に

隠したの？

血管よ

風と  
月と  
視線と  
か  
宵  
間  
め  
て

この胸にある

蒼の森を

ただ

一点を

衝け

今指先  
に  
わ  
た  
し  
の  
ス  
べ  
テ  
の  
集  
め  
て  
み  
た

まっすぐ見た

そこだけ

色が付いていく

私を作った

それだけが現実

シャワーは  
ときに  
身体を辿り  
その形状を  
海へともな  
って帰る

不規則に  
脈打つのは  
素直になのは  
意地っぱりない  
鼓動

---

血だらけの  
ブラジャー  
ブーイング  
秋晴れの  
その下の  
ごしごし  
洗う

彼のいない

雨の夜は

わざと

濡れねずみで

帰ってみる

一日の  
三分の一は  
夢のなか  
に生きて  
いるって  
無駄

無理しても

動いていれば

考えずにすむ

癌から

目をそらす

つらい  
と言  
うの  
は  
簡単  
だか  
ら  
簡単  
には  
わな  
い

自分から

暖かくなる

わけでもないのに

ぬいぐるみは

なぜ温い

恐  
さ  
だ  
い  
け  
で  
で  
き  
て  
い  
る  
毎  
日  
の  
一  
分  
は  
な  
が  
い

泣くことも

笑うことも

できず

その端に

ひっかかったまま

スチロール壊して

中の

やわらかそうで

まんまるそうな

あたし取り出して

何と  
引き替えなのか  
乳癌と  
日常と  
ウタと

生存率より

乳房選ぶ

どうしようもないくらい

オンナだ

ワタシも

みん  
な  
か  
ら  
の  
大  
丈  
夫  
抱  
え  
て  
手  
術  
室  
は  
満  
杯

ゆがめたかおを

したくなくて

お笑い番組ばかり

見ていた

病室

全ておちてしまふので

そらは

いつだって

身軽に

微笑んでいる

ペットボトルの  
底の  
水滴まで  
愛おしい  
手術直後

たまりに

溜まって

点滴

ポタリ

血管へむかう

看護師さんの

ポケットには

予備のペンやら

優しさやら

お説教やら

手の甲の

点滴とれて

泡立てた石けんの

この

健康的な香り

例えてみれば

「毎日

寝ながら

上げ膳据え膳」

豪華な病人なこと

病室での会話は

病氣自慢

あーもう

病気になっちゃいそうな

私も入院患者

君は  
どう  
なんだい？  
瞳の  
奥に  
何を  
隠し  
たんだい？

優しさも  
苦しきも  
さらけだして  
銀河に  
横たわる

こんな  
そらが  
気になるのは  
もうすぐ  
翼が生える証拠

塀の上

バランスとって

歩くよ

両手広げて

脇見もしながら

嫉妬ばかりの  
私の  
プライドなんて  
癌の前では  
無力

この電線

綱渡り

してったら

懐かしいあの頃まで

いけるかしら

あ  
の  
ひ  
と  
の  
あ  
つ  
た  
折  
鶴  
た  
べ  
つ  
ト  
の  
傍  
ら  
で  
啼  
く

そろそろ

首の後ろの

タグ

はずしてもらいませんか？

ワタシ非売品

自分  
を  
外  
か  
ら  
眺  
め  
て  
る  
告  
知  
の  
瞬  
間

ほんとうは

じわじわと

やってくる

例えば

昼間のアスファルトの上で

わざと

癌になるという

食べ物

食べちゃったりして

もう癌だから

ヒロインより

ヒーローになりたくて

固く

拳

にぎる

胸と天意ガ  
がれのの地ン  
軽た邪悪と  
いみ鬼や共  
たいもに  
い

学校に行く

私のあと

追ってきた弟が

私を

病院まで送ってくれ

負けるよ  
じぶん  
癌に  
格好に  
いっつか  
は骨  
かけても

人  
と  
人  
と  
の  
縁  
に  
結  
ば  
れ  
て  
今  
こ  
こ  
に  
あ  
る  
私  
と  
い  
う  
生

この年は縁（えにし）というものを実感した年でした。

相談にのっていただいた主治医の吉野先生

執刀いただいた村山先生

セカンドオピニオンをすすめてくれた岡本さん

お見舞いにきてくれた友人と家族

色々と愚痴や不安をきいてくれた歌友さんたち

退院祝いをこそりと贈ってくれたSさま

そして有給を全部使って毎日きてくれた彼

まだまだ沢山感謝すべき人ばかり

五年たったら完治といわれている癌ですが

今も半年に一度検診に行っております。

もしこれを読んでいるあなたが

不安でしたら是非検査にしてみてください。

早ければ早いほど治療の選択の幅があります。

そしてこうして私みたいに

「笑って生きる」を

感受できます。

いつもいつも「ありがとう」

奥付け

---

泡-2004-

海の空こ 著

2011/01/24発行

以上 誤字脱字のない限り 完成